

[ 平成18年度決算審査特別委員会（文教分科会）－09月13日-01号 ]

◆芝田 委員 公明党の芝田でございます。ご苦労さまです。私は、ドリームクラブ事業についてご質問させていただきます。

決算審査特別委員会であります。教育費の第1項教育総務費、学校教育費目にあたります部活動推進事業の中の部活動技術指導者謝礼金3,338万1,600円、部活動振興推進事業94万9,770円について中心に質問をさせていただきます。主にこのドリーム事業というのは、中学校における部活動というふうにお聞きしておりますが、中学校における部活動の現状について、またその部活動の果たす役割についてお聞きいたします。

◎降井 生徒指導担当課長 まず、部活動の現状でございますけれども、平成19年度、本年度、運動部で18種目、458部、文化部では28種目、213部が開設されております。運動部には男子生徒の方が7,495名、女子生徒が5,307名の合計1万2,802名、文化部は男女合わせまして3,302名の生徒が入部しております。入部率では運動部が62%、文化部が16%となっており、本市中学生の約4分の3以上の生徒が部活動に入部し、日々活動しているところであります。

部活動の、また意義でございますけれども、部活動は学級や学年の離れた集団として自主的・自発的な活動を展開し、お互いに協力し、自己の責任を果たすことで、社会生活を営む上で必要な協調性、責任感を培うことができ、個性の伸長、体力の向上、健康の増進を図るなど、大きな役割を果たしているのとらえております。さらに、その活動を通して生徒と教師が信頼関係をつくり、保護者・地域と連携・協力して、健全育成や生徒指導面でも成果を上げていていると考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 入部率では、今年度、これは初期の4月、5月の時点での運動部62%、文化部16%でいいわけですね。ここ3年で、実際、この入部率がどうなのか、ふえてるんかどうか、減ってるのかどうか、それだけちょっとお教え願いたいと思います。

◎降井 生徒指導担当課長 入部率の方は運動部が約60%前後で推移しておりますが、横ばい状況でございます。以上でございます。

◆芝田 委員 文化部は。

◎降井 生徒指導担当課長 文化部も同様でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。それでは、ドリームクラブの事業に、現状についてと、このドリームクラブ事業ができた背景についてお聞かせください。

◎降井 生徒指導担当課長 まず、この堺ドリームクラブ事業は、平成11年度から開始されております。まず現在の状況でありますけれども、部活動技術指導者派遣事業及び運動部活動振興推進事業の2事業で展開しております。まず、部活動技術者派遣事業、これは各運動部に技術指導者を派遣する事業でありますけれども、平成19年度は市内全中学校に運動部221名、文化部60名の指導者を合計1万4,360回派遣予定になって

おります。また、運動部活動振興推進事業は、これにつきましては、自分が在籍する学校に希望する部活動がない生徒に対して、今年度は種目別拠点校として10種目9校を設置して、そこでの活動ができるようにしております。現在135名の生徒がこの拠点校で部活動を行っております。

なお、この11年度から始まりましたドリームクラブ事業が開始された背景ですけれども、平成10年に堺市の方が健康都市・堺宣言をいたしまして、その具現化に向けて、中学校の部活動を何とか活性化していこうということで、この事業が始まったというふうに聞いております。以上でございます。

◆芝田 委員 堺で実際、中学校で拠点校を設けておられるのは10校で、その種目を学校別にお教え願えますか。

◎降井 生徒指導担当課長 平成19年度の拠点校の種目と学校数を申し上げます。

まず陸上競技、これは赤坂台中学校と津久野中学校で。バスケットボール、殿馬場中学校で。ハンドボール、浅香山中学校。ソフトボール、福泉南中学校。それからバドミントン、月州中学校。剣道、浅香山中学校。それから柔道、上野芝中学校、浜寺南中学校。相撲、浜寺南中学校。ラグビー、金岡北中学校。水泳、月州中学校。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。私は北区で昔の金岡中学校出身でありまして、現在、金岡北中学校ですが、東大阪でラグビーの先生をされてる方、岩崎先生でしたけども、北中に赴任されて、現在、ラグビー部員が、その地元中学校で50名、ラグビーをしたいという生徒が10何名ということで、昨年でしたかね、大阪の大会で見事、ブロックごとでしたけども、入賞されたということで、特に堺ではラグビーが、やってるのはこの中学校だけということでありまして、それ以外に、またかなり何十名、かなりのほかの他校と比べて、拠点校の中でクラブに入ってる生徒数が多いというのは聞いております。幾つか例を挙げていただけますか。

◎降井 生徒指導担当課長 今、委員仰せのように、金岡北中学校におきましては、他校6校から12名の生徒が入部しておりますけれども、先ほど申し上げました柔道の方で、上野芝中学校の方は、堺市内の中学校23校から57名の生徒が上野芝中学校で柔道をしております。あと、月州中学校の方で水泳ですけれども、これは4校で7名が入っております。あと、多いのは浅香山中学校で剣道、これが8校で19名の生徒がその拠点校で部活動を入部しております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。今年度予算も、先ほど私が言いましたように、部活動技術指導者派遣事業費としては、ほぼ横ばいの3,446万4,000円、運動部活動振興推進事業、これは拠点校の分の予算だと思っておりますが、これが100万円ということで、1校当たり大体10万ぐらいということで、いろいろお話を聞いた中では、クラブの内容とか、生徒数も違うということで、それなりの試算で分けてるということでありましてけれども、今年度より部活動において、全国大会や近畿大会に出場した場合ですね、交通費全額と奨励金として出るというふうに聞いておりますが、詳細を教えてくださいませんか。

◎降井 生徒指導担当課長 まず、今年度から部活動は全国大会や近畿大会に出場した場合の補助金でございますけれども、まず交通費を、自宅から大会会場までの交通費を全額、それとあと奨励金としまして、近畿大会は3,000円、それから全国大会は1万円、補助しております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。先ほどの北中、またすごい人数の上野芝中学校の柔道ということで、また、中教審の方でも部等が体育ですかね、必修科目の流れということで、そういう運動、またクラブ活動発達、青少年に対しての健全育成、そしてまたいろんな面でメリットの分が今再度大事だというような認識がされてるようになっております。この拠点校10校で実際そうやってする中で、私もいろんな要望を聞いたりしておりますけれども、この拠点校における課題ですね、また具体的に何かお聞きしてる事があれば、述べていただきたいと思っております。

◎降井 生徒指導担当課長 まず、このドリームクラブ事業によりまして、自校の学校でないクラブを、希望してる子供が、その拠点校に行って、そのクラブができるという非常に子どもにとってはありがたい、非常に力いっぱいできる、自分の好きなことができるという利点がございますけれども、一つ課題として挙げることにしまして、種目別拠点校の団体での公式戦への参加が、大阪府中学校体育連盟の規約によりまして、まだできないという状況がございます。堺だけの大会でありましたら、堺の中体連の申し合わせ事項で、我々、この拠点校の方、ドリームチームというふうな呼び方をしておりますけれども、団体でも出るように申し合わせしておりますけれども、近畿大会、全国大会につながるような大会には、このドリームチームでは団体種目は出れないということが大きな課題となっております。以上でございます。

◆芝田 委員 大阪府の中学校体育連盟での規約でできないということではありますが、例えば北中の場合ですけども、50名で、あと10何名ということで、難しいという話も聞いておられて、堺市内でラグビーやってる学校も少ないということで、どうしても練習試合は堺市以外でやって、公式戦には出れないということではありますが、これ、ドリームクラブ事業の中の拠点校におきましても、これは少子化の流れで、そしてまた、いい先生が、岩崎先生のような方が来れば、あちこちで、そういう拠点校みたいなものができて盛んになっていくと。また、いろんな意味での刺激もなるわけですので、そういう、まずですね、今の規約の中で無理であっても、先生を呼ぶという、こういうのは今の状況では可能なんでしょうか。

◎登り山 教職員課長 人事異動の中で、市内でそういう各学校でのヒアリング等を通して、各学校の校長等の状況をヒアリングを通して、それぞれの先生方の状況を確認しながら、人事異動をしております。また他府県、また他市との中での人事交流におきましても、そのようなクラブ活動の人材については大切にして、堺市に向いていただくということについても努力しているところでございまして、採用におきましても、そのようなところについては重要視して取り組んでいるところでございます。以上でございます。

◆芝田 委員 岩崎先生は堺市内に住んでたから、そういうスムーズな流れで来たということですけども、今、課長が言われてるように、可能性があるというふうに理解してよろしいのでしょうか。そういうスポーツに、全国大会に出たとか、また大学で一流の人が堺市内で教職の道を歩むときに、そういう対応ができるかどうか、もう一度お聞きしたいと思います。

◎登り山 教職員課長 委員のおっしゃられている趣旨は十分理解しているつもりでありますし、また、そのように努力しなければならないというふうにも考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。それでは、ドリームクラブ事業の部活動の展望について最後お聞きしたいと思います。

◎降井 生徒指導担当課長 11年度から始まりましたこのドリームクラブ事業を展開することによりまして、何とか部活動の活性化に努めておりますが、まだ、この事業の継続を図りながら、また、今委員仰せのことも考慮しながら部活動の活性化をさらに図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 もう1個最後に、金岡北中のことばかりで恐縮でございますが、この先生が来て、ラグビー部に入部する方がおって、当初学校等がちょっと風紀の乱れがあったということですが、それが改善されたというような話も聞いてるんで、その辺、ご説明をお願いしたいと思います。

◎降井 生徒指導担当課長 当該校につきましては、生徒指導上の課題もあった学校でございますし、朝の苦情のこともありましたけれども、教育委員会にもいろいろ苦情があったこともございましたけれども、このラグビー部が創設されて以来、かなり生徒指導の面で生徒が落ちついてきたというふうな報告も受けておりますし、また、ラグビー部が地域に出て、いろんなボランティア活動もしておると、地域清掃なんかにクラブとして参加してるというふうなことも聞いております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。京都の伏見工業の山口先生ですが、ラグビー先生の話はテレビのドラマにもなりましたし、スクール・ウォーズというドラマになりましたように、本当にスポーツが果たす役割、そしてまた若者のこのすばらしいエネルギーをそういうところに向ければ、風紀とか、また午前中質問させていただきましたけども、委員会で質問させていただきました、いじめの問題におきましても、いい方向に行くというのは、これは皆さんの理解は私と一緒にしたいと思いますし、そういった意味で拠点校も平成11年度からスタートいたしまして、他市に比べて早い段階でスタートして、いろんな課題もあり、またご苦労もあったかと思えます。そういった中で、やはりお金の問題、予算にしても、やはり拠点校に来るのにかなり費用がかかるという場合もあるでしょうし、そういった意味で、やはり予算をふやしていただき、また後半の方に言いましたように、やはりそういったすばらしい指導者を呼んでいけるような堺市の教育委員会にさせていただきたいということを要望いたしまして、この質問を終わらせていただきます。